

地域医療連携だより

高松市立病院
基本理念

『生きる力を応援します』

高松市民病院
基本方針

1『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。
2『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。
3『まごころのある医療人』を全力で育成します。

平成28年

3月号

〈第22号〉

診療科紹介

消化器内科

田中 育太 友兼 毅 新居 徹

いつも患者さんの紹介・逆紹介ではお世話になっています。当院消化器内科の紹介をさせていただきます。現在田中、友兼、新居の3名の常勤医で診療を行っています。2012年度より徳島大学消化器科の派遣となっています。私と新居は徳島出身ですが、科長の田中は高松出身です。高松での勤務は初めてでしたが、高松は徳島と比較して随分都会でとても暮らしやすいと感じています。

当院は内科学会・消化器病学会・肝臓病学会・消化器内視鏡学会の指導施設となっており、中核病院

として必要な治療に関しては外科と連携して施行できる体制になっています。また、地域医療支援病院にも指定され高松市立病院としての使命として、可能な限り救急患者の診療も各科連携し行っています。外来診療は、平日午前中に毎日行っています。

内視鏡治療

現在、当科では内視鏡が主な業務となっており、昨年度は上部消化管内視鏡件数3500件、下部内視鏡件数670件、ERCP（胆膵内視鏡治療）97件、EMR（内視鏡的粘膜切除）83件、ESD（内視鏡的粘膜下層切開剥離）23件となっています。また、EUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引生検あるいはドレナージ）も施行しています。上部内視鏡は経鼻内視鏡あるいは鎮静剤を適宜使用して苦痛の軽減に努めています。下部内視鏡も鎮痛剤を適宜使用しており、また、腸管洗浄液も従来品より飲用量が減り1Lとなっており、検査自体が大分楽になってきています。これまで

でどおり便潜血陽性患者さんやスクリーニング目的での御紹介をお願いいたします。

ESDは消化管の早期がんに対する内視鏡治療で、これまでのスネアを使用したEMRでは困難であった2cm以上のサイズの大きな腫瘍を切除することが可能であり、当科でも積極的に取り組んでいます。また、切除標本もこれまでのEMRのように分割になることがなく正確に診断すること



が可能であり、治療切除なのかあるいは追加での外科切除が必要であるのかを評価できます。ERCPは総胆管結石や胆管腫瘍に対する内視鏡治療です。指導施設として一般的な治療は施行可能ですが、最近では十二指腸乳頭へのカニューレションが困難であった症例に膵管ワイヤー法やプレカッティング法等が行われるようになり、昔のようにPTCDが行われることがほとんどなくなりました。

EUS-FNAは膵がんや粘膜下腫瘍等のこれまで組織診断が困難であった胃粘膜外の腫瘍を、超音波内視鏡下に針生検を行う方法です。術前あるいは化学療法前に腫瘍の組織診断や悪性度、分子生物学的な評価を行うことが可能となり、個々の症例に最も適切な治療を行うことが可能となりました。当科では田中が経験豊富であり、現在は膵のう胞ドレナージ、閉塞性黄疸に対する胆管ドレナージ、がん性疼痛に

対する腹腔神経叢ブロック等、比較的難易度の高い手技も施行しています。また、検査の結果、手術適応にならなかった患者さんに対する化学療法もガイドラインに準じて当科で適切に施行しています。その他としては胃瘻増設目的での紹介もあり、適宜嚥下機能評価等を施行してから胃瘻を作成しています。

肝炎治療

トピックスでは、ウィルス性肝炎に対する抗ウィルス療法も施行しています。特にC型肝炎では内服での肝炎治療が行われており、これまでのインターフェロン治療のような副作用がなくなり高い治療率が得られるようになってきました。また、肝細胞がんに対しては外科と協力して治療に取り組んでいます。

今後ともよろしくお願いたします。

(文責 友兼 毅)

『徳島大学 脊椎外来』を開設いたします

徳島大学教授、准教授が診察いたします

当院の整形外科では、平成28年4月7日（木）より、徳島大学大学院 運動機能外科学（整形外科）教授 さいりょう こういち 西良 浩一先生をはじめ3名の先生方にお越しいたいただき、「徳島大学 脊椎外来」を開設いたします。

～西良教授のプロフィール～

『スポーツ医学をベースにした新進気鋭の脊椎外科医であり、インターナショナルに活躍されています。2000年に、徳島大学整形外科で徳島県初の脊椎内視鏡による椎間板ヘルニア摘出術を執刀し、続いて脊椎分離症の内視鏡手術を世界に先駆けて成功させる等、患者負担の少ない内視鏡による手術法の確立に貢献してきました。現在は、究極の脊椎内視鏡PEDによる新しい治療法の開発・確立に取り組んでいます。また、スポーツ選手の腰痛治療にも内視鏡を中心とした低侵襲治療を応用しており、多くのオリンピック選手やプロ野球選手の診断や治療を行っています。』

徳島大学 脊椎外来外来は、木曜日の午前中（9:00～12:00）で完全予約制です。また、診察時には、MRI画像が必要となりますので、御了承ください。なお、診察を御希望の方は、かかりつけ医を通して、地域医療連携室まで御予約をお願いいたします。

徳島大学 脊椎外来 担当表

診 察 日	医 師 名	診 察 日	医 師 名
第1木曜日	西良 浩一 教授	第4木曜日	東野 恒作 准教授
第2木曜日	長町 顕弘 准教授	第5木曜日	西良 浩一 教授
第3木曜日	酒井 紀典 准教授		長町 顕弘 准教授

新病院新築工事の着工に当たって

去る2月20日、香川県医師会長様や高松市医師会長様を始め、100名近くの関係者の皆様方の御出席をいただき、雨の降る中ではございましたが、新病院新築工事の安全祈願祭と起工式を行いました。

平成30年度前半の開院に向け、市民を始め関係者の皆様方、なによりも職員一同が、待ちかねた第一歩をようやく踏み出すことができ、責任の重さをひしひしと感じています。

御存じのとおり、新病院は、一般病床299床（うち、地域包括ケア病床44床）、感染症病床6床、合計305床を有し、急性期病院として、地域の医療機関等との機能分担と連携を、より一層強化し、「がん医療」、「救急医療」、「災害時や感染症に対する医療」、「へき地医療」に重点的に取り組むとともに、地域包括ケア病棟を設置する等、地域包括ケアの後方支援機能の強化を図ることとしています。

これらの医療機能を、十分機能させるためには、ハードとともにソフト面での充実が必要で、地域の医療機関の先生方との連携は不可欠です。

このため、昨年8月には、設計変更を行い、地域の医療機関や施設からの、きめ細やかな相談等へ対応するための、相談スペースの拡充を図りました。

新病院開院まで、あと二年半しかありませんが、皆様方の御協力をいただきながら、市民から「新病院があるから安心して暮らせます」と言っていたりするような病院づくりに努めてまいりますので、今後とも御指導いただきますようお願い申し上げます。

（文責 高松市病院局長 篠原也寸志）



住民参加型の医療を提供する「香川診療所」

★ 高松市民病院附属香川診療所 小児科 ★

本年1月号より、高松市民病院塩江分院及び高松市民病院附属香川診療所を紹介させていただいています。

今回は香川診療所における小児科の活動の中で、「わたしのかるて」・「ぼくのかるて」を紹介させていただきます。

旧香川町の地域医療の一翼を担ってきた香川病院が平成22年10月より無床診療所となったことで、患者さんからは「入院ができない」と言った不安をよく訴えられていました。この患者さんの不安を少しでも解消するために、診療を行った当日の電子カルテの画面をハードコピーして患者さんに配布することを始めました。

カルテ開示と言った堅苦しいものではなく、入院施設がなくなったこともあり、病状が急変した時に診療内容を救急病院や夜間診療所に持参できるよう考えたものでした。その後の23年7月からは、正式に「わたしのかるて」・「ぼくのかるて」を作成し、来院されたすべての小児科の患者さんに配布を始めました。

所長を始スタッフ全員の協力で作成にあたりました。まさに家内制手工業の様相ではありますが、普通のA4のバインダーを利用し、検査科や放射線科の技師の協力で外装を可愛くしてもらい、内容には「かるて」の使い方や診療所前の薬局の先生にお願いして内服の仕方、また検査技師の協力で検査データの見方等も紙面に綴じ込み、当日の問診、診療内容、検査結果、処方内容等のハードコピー（一枚画面）を診察終了時に毎回手渡しています。

患者さんの評判は良好で、発行後に行ったアンケート調査では、8割強の方が有効利用されており、家族内での情報交換がスムーズで病識が深まったり、コンビニ受診の解消や診療所との信頼関係を深めることに一役買っていることが伺われました。

以後、徐々に配布の対象者を拡大し、最近では、眼科や内科でも発行しており、現在発行部数は3,000部を超え、月に20部以上の新規発行を続けています。



第5回 地域医療連携カンファレンス開催のお知らせ

日時 平成28年6月16日（木）19:00～20:00（開場18:30）

場所 JRホテルクレメント高松 飛天の間（3階）

高松市浜ノ町1-1 ☎087-811-1111（代表）

一般講演 「ロコモ」とは？ ロコモ チャレンジ！

高松市民病院 整形外科 高木 俊人 先生

特別講演 「腰痛治療の最前線

～体にやさしい低侵襲・内視鏡手術～」

徳島大学大学院医歯薬学研究部

運動機能外科学（整形外科）教授 西良 浩一 先生



《講師略歴》 高松市出身
S63年 徳島大学医学部医学科 卒業
H7年 米国アイオワ大学留学
H11年 徳島大学講師
H15年 米国トレド大学留学
H25年 徳島大学運動機能外科学 教授

《専門領域》 脊椎・脊髄外科・スポーツ医学

- ※ 近隣施設の医師及び医療従事者を対象としています。
- ※ カリキュラムコード（60.腰痛）を取得となります。
- ※ 特別講演会終了後に意見交換会を準備しております。ぜひ、御出席ください。

『医療・介護関連施設職員研修会』開催



第22回 医療・介護関連施設職員研修会を通して

1月27日（水）に『褥瘡の処置について』の演題にて、当院形成外科医長より38名の施設職員の方に講義を行わせていただきました。当日行ったアンケート調査より、「訪問時、褥瘡が発生して対応に困ることもあるのでいろいろと提案できると思った」「湿潤療法のラップ療法を処置で実践したい」「毎日の洗浄が必要であり、感染に注意することが大切だと改めて思った」等多数の御意見をいただくことができました。御参加ありがとうございました。



第23回 医療・介護関連施設職員研修会を通して

2月3日（水）に『高齢糖尿病患者のケアのポイント』の演題にて、当院糖尿病チームより15名の施設職員の方に講義を行わせていただきました。当日行ったアンケート調査より、「低血糖症状を起こした方への対応として食前薬、インシュリン投与の時間等を再度見直したい」「食事と運動を少しずつ現場で見直したい」「薬の飲み方等いい加減なところがあったので、再度知識を深めたいと思った」等多数の御意見をいただくことができました。御参加ありがとうございました。